

ゆめ ゆらゆら 夢亭

菅波 茂

2012年6月2日。

東日本大震災被災地である金石市と大槌町を訪れた。昨年3月15日から緊急救援活動を含めて3回目である。暖かい日差しに、雪に覆われた当時の陰惨な環境下で行った避難所での医療活動に幻の感がする。

AMD A大槌健康サポートセンターは東日本大震災復興支援第一次3カ年計画の主役である。「花のことは花に聴け」と世阿弥が言ったように、被災地のことは被災地の人たちが一番良く知っている。

最大のコンセプトは「被災地間相互交流」で

ある。第一弾は様々な分野の大槌町民一行の気仙沼復興商店街南町紫市場への訪問。第二弾は気仙沼の仮設商店街の人々が大槌町の商店街を逆訪問し、協定調印式を行い、第三弾は7月15日に大槌北小福幸きらり商店街で開催された「福幸きらり夏祭り」。阪神淡路大震災の被災地だった淡路島の「淡路ビーフ新谷」から「淡路牛のもの丸焼き」と気仙沼の「流れ寿し」からにぎり寿司の提供等がなされる。

祭りは地域共同体のエネルギーの象徴。エネルギーがあるから祭りを実

行できるのか、祭りを実

東日本大震災復興へのエネルギー

行するからエネルギーが湧くのか。神社仏閣が祭りの場になり人が集う。氏子や檀家がその起爆力となる。復興支援とは喜びの共有である。

喜びの共有は新たな絆形成につながる。AMD Aの被災地間相互交流の次なるテーマは「祭り」である。古くて新しい感覚での創出である。

今年25日から、AMD A華蔵寺合同プログラムとして、AMD A高校生会大槌のメンバーら高校生3名と大槌稲荷神社禰宜の十王館夫妻が岡山に来る。大槌稲荷神社は大震災の時に避難所として約150名を受け入れた。60年に一度災害は来る」との言い伝えを守った食料備蓄と、十王館禰宜のリーダーシップのもとに模範的な避難所

多くの人が集まり、絆が深まった福幸きらり夏祭り―被災地間相互交流 第三弾
岩手県大槌町で



立ちたい気持ちがある。同時に、AMD Aのすべての東

生活を確保。その貴重な体験を、避難所となる可能性のある、岡山県の神社仏閣の聖職者の方々に伝えるための来岡である。美咲町と岡山市内で講演会を開く。華蔵寺住職阿形国明氏とRNN副教主黒住宗道氏に感謝したい。

人はずいぶん役になりお世話役」が最良である。AMD Aのすべての東日本大震災復興支援活動にもプライドがある。人間関係には3種類ある。フレンドシップ、スポンサーシップそしてパートナーシップである。最も危険な人間関係が無期限のサポートである。その司令塔がAMD A大槌健康サポートセンターである。大槌町から救援チーム来る。心が動かされるのはこの一点である。大槌町には一刻も早く復興したい。明日、私が困ったら助けに来てください。困った時はお互いさま。これが相互扶助である。被災地の気持ちを尊重すれば、「リーダーシップよば、」リーダーシップよ

AMD Aのすべての東日本大震災復興支援活動にもプライドがある。人間関係には3種類ある。フレンドシップ、スポンサーシップそしてパートナーシップである。最も危険な人間関係が無期限のサポートである。その司令塔がAMD A大槌健康サポートセンターである。大槌町から救援チーム来る。心が動かされるのはこの一点である。大槌町には一刻も早く復興したい。明日、私が困ったら助けに来てください。困った時はお互いさま。これが相互扶助である。被災地の気持ちを尊重すれば、「リーダーシップよば、」リーダーシップよ

(注) RNN人道援助 宗教NGOネットワーク